

1

〔問題1〕 20点満点

- ・子供はみんないい子だから、教師がサポートさえすれば、みんな一緒に仲良くできる（はずだという考え。）
- ・子供たちはだれとでも友だちになれるものだから、クラスはみんな仲良く一緒になれる（はずだという考え。）

〔問題2〕 各10点満点

- ・ムラで一つの小学校には、代々家族ぐるみで顔見知りの子供たちが集まるから。
- ・ムラの共同的生活を核にした地域の支えが学校やクラスの運営を助けていたから。

〔問題3〕（作文例 四八三字） 60点満点

自分と意見の合わない人との付き合い方について、筆者は「お互い傷つけあわない形で、ともに時間と空間をとりあえず共有できる作法を身につける」ことが重要だと述べている。私もこの考えに賛成だ。

私が通う小学校では、多くの生徒が昼休みに校庭に出て遊ぶ。私が小学五年生のころ、運動会に向けて大縄の特訓をしたい女子のグループと、サッカーをして遊びたい男子のグループの、どちらが校庭を使うかで対立したことがあった。運動会の準備で校庭の一部が使えなかったために、大縄とサッカーを同時にできるほど校庭のスペースは残っていなかった。そこで私たちは、男子のグループと話し合い、私たちが運動会に向けて練習量を増やしたいこと、運動会が終わるまでは週に三回、昼休みの校庭を使わせてほしいことを伝えた。すると、男子も運動会までの二週間に限って、私たちの提案を受け入れてくれた。

このように、対立することがあっても、しっかり事情を話しあえば、良い解決策が見つかることもある。筆者の述べる「作法」とは、悪口を言いあたり暴力にうったえたりせず、相手と根気よく話し合う姿勢のことなのではないかと私は思う。